ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

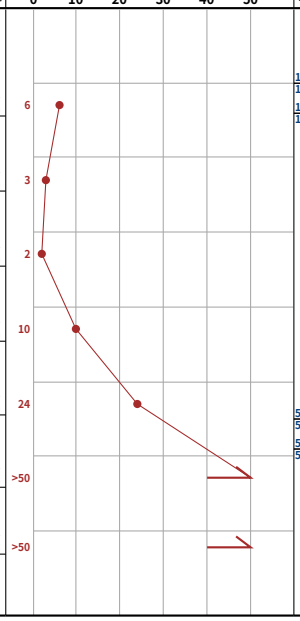
シートNO.

ボーリング名	B-3(測点No.69右岸)	調査位置				北　緯	36 ° 28 ' 49.9700 "
発注機関	栃木県　宇都宮土木事務所			調査期間	2009-11-16 ～ 2009-11-17	東　経	139 ° 53 ' 25.5400 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	80.96 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	7.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
1					盛土・シルト混り砂礫 (BS/GS-M)	暗茶褐	中ぐらい		上部10cmは軟質なシルト。以深、シルト混り砂礫から成る。礫はφ30～50mmを散在し、局所ではφ80～100mm程を散在し、最大ではφ200mmをも認める。マトリックスは中～粗砂分とシルト分で構成され、礫間を非常に緩く埋める。 GL-1.9m以深、含水・粘性共に中位なシルト分を優勢し、φ10～30mm程の亜円礫を目視上，10～20%前後混じる材料となる。 GL-3m付近より、細砂分の含有が見られ、部分的には塊状を成す。		
2						暗褐					
3											
4	76.96	4.00	4.00								
	76.76	0.20	4.20		砂質シルト (MS)	暗褐			含水・粘性・硬度共に中位。全体に細砂分を含有する。		11/16 4.60
	76.61	0.15	4.35		礫混り砂 (S-G)	暗褐	中ぐらい		中～粗砂分を主体にφ5mm内外の亜円礫を散在する。		
5					砂礫 (GS)	暗褐灰			礫はφ10～30mmの円礫を主体に最大φ60mm程を含み、局所でコア長3～6cm(推定φ100～200mm程)の玉石分を混入する。礫間は中～粗砂分と細粒土分で構成される。 GL-6.75m付近より、礫間への細粒土分含有が増し、充填度合いの上昇を感じる。		
6							非常に密な				
7	73.65	2.96	7.31			暗茶灰					

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	2	6／30	6
1.45					
2.15	1	1	1	3／30	3
2.45					
3.15		1／15	1／15	2／30	2
3.45					
4.15	1	2	7	10／30	10
4.45					
5.15	8	9	7	24／30	24
5.45					
6.15	19	20	11／6	50／26	>50
6.41					
7.15	29	21／6		50／16	>50
7.31					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果
1.00	現場透水試験
1.00	現場透水試験
1.40	k=6.5×E-3
1.40	k=6.5×E-3
5.50	現場透水試験
5.50	現場透水試験
5.90	k=3.1×E-2
5.90	k=3.1×E-2

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1.00	B-3-1		土粒子の密度試験・土の含水比試験・土の粒度試験・土の湿潤密度試験	
1.90				
5.00	B-3-2		土の含水比試験・土の粒度試験・土の湿潤密度試験	11/16
6.00				11/17